聖　書：エペソ 1：20〜23
説教題：教会はキリストのからだ
日　時：2024 年 2 月 4 日（朝拝）

毎年、教会設立記念礼拝の日は教会について語られている箇所から説教をしています。ここ数年は丁度、講解説教を続けている次の箇所が教会について考えるのにふさわしい箇所でしたので、そのまま続けましたが、現在読んでいる創世記の次の箇所はそれが難しいと判断して、今日は他の箇所を取り上げさせていただきました。さて教会というテーマについて特に語られている聖書の書としては、このエペソ人への手紙があげられると思います。そこで今後、教会設立記念礼拝の日には、このエペソ書の中から教会について特に触れられている箇所を選んで見て行きたいと願い、今日は 1 章最後の部分を見ることとしました。ここはこの手紙の中で初めて「教会」という言葉が出て来る箇所です（1 章 22〜23 節）。その 2 節に焦点を当てて見て行きますが、その前の部分とも関係がありますので 20 節から読んでいただきました。また実はさらにその前の部分とも深いつながりがありますので、その部分は招詞で読んでいただきました。

まずその部分をごく簡単に見たいと思います。パウロは 15 節以降でエペソ教会のことを思い、神に感謝していることについて触れた後、17〜19 節で三つの祈りを祈っています。一つ目は 17 節の聖霊の照明を求める祈りです。パウロがこれから語ることは人間の知恵や力で理解できるものではありません。神の真理すべてについて言えますが、その本当の理解のためには聖霊の導きが必要です。聖霊が私たちの心を明るく照らして、私たちの心の目がはっきり見えるようにしてくださることが必要です。そのことをパウロはまず祈っています。二つ目に祈っていることは、18 節にある通り、その聖霊の導きによって心の目がはっきり見えるようになり、「神の召しにより与えられる望みがどのようなものか、聖徒たちが受け継ぐものがどれほど栄光に富んだものか」を知ることができるようにということです。神によって救いへ召された人の将来には素晴らしい祝福が用意されています。この世のものとは比較にならない栄光に富んだものをクリスチャンは受け継ぐことになります。その素晴らしさをいつも喜び見つめている者であるように！ということです。そして三つ目は 19 節にある通り、そのやがての祝福に至るまでの間、「神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように」

ということです。ともするとクリスチャンはこのことを良く味わっていないかもしれません。ある人々には神のすぐれた力が働いているとしても、この私にはそんなにすぐれた神の力は働いていないと思っているかもしれません。としたら、それはその人の心の目がはっきり見えていない状態にあるということです。パウロは心の目がはっきり見えているなら、ここで彼が祈っていることがすべて自分に当てはまることをクリスチャンは知ることができると言っています。その祝福に豊かに生きることができるように彼はとりなしの祈りをささげているのです。

ではどうすれば私たちは、19 節が言う、神のすぐれた力、しかも偉大な力が自分にも働いていることを知ることができるのでしょう。その道筋が 20 節以降で述べられています。先に祈られた通り、それは聖霊によって悟ることができるものですが、それはただ神秘的なのではないのです。そのための方法は 20 節以降でパウロが記す通り、神がキリストにしたことを良く見ることです。自分自身の内側を一生懸命覗き込むのではなく、キリストを見つめることです。このルートを通ることによって自らの内に働いている神の力を知ることができるのです。

パウロは 20 節以降で神がキリストにしたことを三つ述べています。まず一つ目は 20 節にある通り、「この大能の力を神はキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ」たこと、つまり復活です。私たちの罪を背負って十字架上で死なれたイエス様は、その苦しみと死において、私たちが払わなければならなかった罪の負債をすべて支払ったので、神はイエス様を死からよみがえらせました。それまで死に打ち勝つことのできた人は一人もいませんでした。すべての人は死の力の前で屈服させられ、沈黙させられて来ました。しかし絶対的な力を誇って来た死の力を破ってイエス様はよみがえられました。ここに罪と死の力に打ち勝った、それよりも強い方が現れました。

二つ目は、神はキリストを「天上でご自分の右の座に着かせて、すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世だけでなく、次に来る世においても、となえられるすべての名の上に置かれ」たこと、すなわちキリストの昇天です。神はキリストをご自分の右という至高の座に着かせて、今やこの世界と宇宙のすべてを治める方とされました。20 節の「すべての支配、権威、権力、主権」とは、目に見える人間の権威ではなく、それをはるかに上回る霊の世界の権威を指す表現であり、この手紙の後

の用法からすると特に悪の世界の権威や支配を指していると考えられます。復活によって罪と死に打ち勝ったイエス様は、今やあらゆる力と権威の上に高く上げられ、それらの上に圧倒的な主権を持っています。また「今の世だけでなく、次に来る世においても、となえられるすべての名の上に置かれました」。22 節前半にある通り、「神はすべてのものをキリストの足の下に従わせ」ています。これは征服者のイメージです。この方に勝る存在や力はこの世界と宇宙にはありません。

そして驚くべき三つ目のことは 22 節後半にある通り、神は「キリストを、すべてのものの上に立つかしらとして教会に与え」たことです。ここでキリストはまず「すべてのものの上に立つかしら」と言われています。これは二つ目で見た通り、キリストが今やすべてのものの上に主権的支配を持っていることを指しています。キリストはすべてのものの上に立つかしら、王の王、万物の主なる方とされています。その方を神は何と教会に与えたと言われています。これはつまり教会の益のために、教会の祝福のためにプレゼントしたという意味です。ここに神のご計画とみわざにおける教会の特別な位置が言われています。神は死から復活させ、天上に上げ、すべての上に立つかしらなるキリストを教会に与えました。ですから教会は神の御前で特別過ぎるほどに特別な存在であることになります。このことを本当に受け止めれば、教会には何ら怖いことはないことになります。あらゆるものの上に絶対的主権を持つ勝利者、王の王が私たちの主なのです。すべてのものを足の下に従わせている圧倒的征服者なるイエス様が、その支配権を教会のために行使してくださるのです。とするなら神が教会のために立てられた祝福の計画がいくらかでも妨げられるということはあり得ません。私たちは確実に最後の栄光のゴールに到達する者とさせられるということになります。

さてこのキリストを与えられた教会のことが最後の 23 節でさらに二つの表現をもって表されています。その一つ目は「教会はキリストのからだであり」ということです。22 節でキリストはすべてのものの上に立つかしらであると言われました。しかしそのすべてのものはキリストの「からだ」とは言われていません。「からだ」と言われているのは教会だけです。つまりキリストはすべてものの上に立つかしらですが、そのすべてのものとキリストとの関係はからだとかしらの関係にはないということです。22 節の「かしら」という言葉は、主権的支配を持っているという意味で使われています。キリストは万物を足の下に従わせているという意味でかしらです。万物はそ

のからだとは言われていません。ただ教会だけがキリストのからだであると言われているのです。さてかしらとからだの関係はどういう関係でしょうか。それは一体の関係です。考えられるあらゆる関係の中で、最も深く結合している関係です。よく有機的関係と言われます。頭とからだには同じいのち、同じ血が流れています。ですから教会がキリストのからだであるということはキリストの内にあるものがそのまま教会にも流れ込んで来ることを意味します。キリストの内にあるいのちと私たちの内にあるいのちが同じであるというのは信じられることでしょうか？キリストの内に満ち満ちているもの、キリストがそのみわざによって勝ち取られた祝福はすべて、そのからだである教会にも分け与えられるのです。キリストがご自身の内にとどめて教会に与えないでおくものは何もありません。教会はキリストとこのような深い一体の関係で結ばれています。

また同じことですが、23 節後半では教会を指して「すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです」と言われています。ここは少し意味が分かりにくいように思います。まずここでキリストのことが「すべてのものを満たす方」と言われています。これは先にも見た通り、キリストが万物の上に絶対支配権を持っていること、王の王、主の主であることを述べているものです。そのすべてのものを満たす際、「すべてのもので満たす」とありますが、これはどういう意味でしょうか。すべてのものを満たすのに、すべてのものを用いるとは、良く考えると意味が分からなくなって来ます。ここは欄外に別訳が示されていますように「すべてにおいてすべてを」を訳すことが可能です。新共同聖書など、他の日本語訳聖書も「すべてにおいてすべてを満たしている方が満ちておられるところ」と訳しています。そうだとすると、キリストはすべてを満たしている方ですが、単にすべてを満たしているだけでなく、そのすべてのものをすべてにおいて、つまり細部にまで渡って満たしているという意味になりそうです。一応すべてのものに御手が及んでいるというレベルでなく、すべてのものをその隅々に至るまですべて支配し、治めている。本来ここまで言わなくても「すべてを満たす」と言えば十分なのですが、あえてこのように言葉を重ねることによってキリストが持っている支配権の十分性、完全性を強調しているのでしょう。そしてパウロは言います。教会とはこのような万物の上に全権を持ちたもうキリストが満ちているところであると。ここでも教会の特別性が語られています。教会は全世界の上に完全な支配権を持ちたもうお方が特別な仕方で満ちておられるところである。最も豊かに臨在し、祝福で満たしてくださっているところである。これは先の「教

会はキリストのからだである」という真理を別の角度から表現したものです。キリストのからだである教会には、かしらと結ばれているがゆえの特別な祝福が注がれています。それをパウロは言い換えて、教会は今やすべてを足の下に従わせているキリストが、その絶対的な権威と恵みをもって、他には見られない仕方で豊かに満ちているところであると言ったのです。

私たちはこのことを本当に知っているでしょうか。もしかしてある人はこれは少し大げさだと考えるかもしれません。実際、教会はそんな風には見えない。祝福を受けているどころか、弱く、小さく、困難な状況に投げやられている。むしろこの世の人々や団体の方が祝福されているように思えて、ともするとそちらに心が引き寄せられると思う人もいるかもしれません。もしそうだとしたら、その人は今日の箇所によれば心の目がはっきり見えていない人であることになります。聖霊によって霊的な事実がはっきり見えるように祈られる必要があることになります。パウロはここで私たち信じる者には現在進行形で神の偉大ですぐれた力が生き生きと働いていると言っています。教会はとてつもない祝福の下に置かれています。なぜなら今や復活し、天に上げられ、あらゆるものの上に立つ真の主権者キリストの絶対的な守りと祝福の下に教会はあるからです。キリストは王の王、主の主として、ご自分が勝ち取った救いを教会に当てはめるためにいよいよ力強く働いておられるからです。確かに私たちの目の前には私たちが考える理想とは異なる状況、多くの問題や課題、病、困難等があります。しかしです。もしキリストが今やすべての上に立つ至高の主権者であり、その方を神は教会に与えておられるなら、どういうことになるでしょう。一見、私たちの肉の目に祝福であるようには見えない様々なことも、主は奇しい仕方で私たちの最高の益のために用いておられることになるのではないでしょうか。最後の救いの完成へと至らせるため、主は私たちががっかりするようなことや苦しみ、試練さえも逆に用いて、信じる者たちの内に今日も驚くべき力を持ってみわざを進めておられることになるのではないでしょうか。神が私たちの身代わりに死なれたキリストを復活させ、天の最も高き所に上げ、すべてのものをキリストの足の下に従わせ、そのキリストを教会に与えられたとは、このような教会の絶対的祝福を意味します。教会はキリストのからだであり、すべてのものをすべて満たす方が満ちておられるところです。私たちはこの霊的な現実に目が開かれ、この信仰の視点に立って神が導いてくださるすべてのことを見て行くのです。そしてこの信仰によって歩む時に、確かにこのように語る御言葉こそ真実であることを、たとえようもない喜びをもって知ることとなるのです。

杉並教会のここまでの歩みも、このように教会を大事にされる神とキリストの愛と守りの中で導かれて来ました。神がキリストを教会に与え、教会をキリストのからだとし、キリストが教会に満ちて祝福くださったことによって、ここまでの歩みが導かれて来ました。この神の御心と恵みのみわざを覚えて今朝心から神とキリストを讃える礼拝をささげたいと思います。また私たちはこれからも聖霊によって心の目が開かれて、神の大能の力によって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどれほど偉大なものであるかを喜びをもって知り、神が与えてくださったキリストに益々より頼み、養われる信仰生活を導かれたいと思います。教会はキリストに特別に結び付けられている者たちとして当然その生き方において自分たちが受けている恵みを証しするように導かれています。このエペソ書では罪のためにバラバラになっているこの世界を神はキリストにあって一つに集め、回復しようとしていること、従ってその神のみわざの最先端に位置する教会は世に先駆けて互いに愛し合う共同体であるべきこと、また光の子どもたちらしく神の光を映し出す聖い生活へ進み行くべきことなどが語られます。そのためにも私たちは今日の御言葉を通して教会は神の御心の中でどれほど特別な位置を占めているのか、またどれほど豊かな恵みの中に置かれているのかを驚きをもって覚えて驚き、心からの感謝と賛美をささげたいと思います。そしてこれからも聖霊によって心の目がはっきり見える者とされて、神がキリストにおいて与えてくださっている教会の祝福に豊かに生きる者とされ、またその生き方をもって神の恵みと救いを世に証しする教会の歩みを導かれて行きたいと思います。